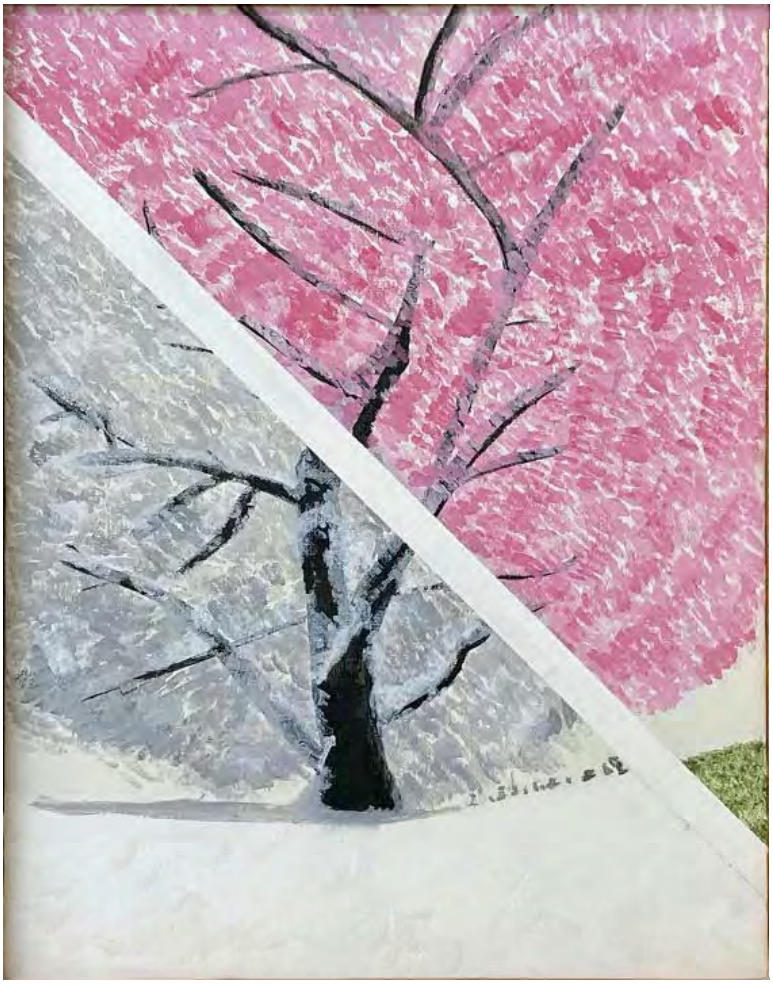
令和４年度

研　究　紀　要



秋田県立増田高等学校

巻　頭　言

校長　渡部　　剛

元号が令和に代わって４年が経ち、学校現場では新しい教育の在り方が少しずつ、しかし確実に進行していることを実感するようになりました。

生徒向けの学習用のタブレット端末が支給され、Wi-fi環境や校内LANが整備された昨年度は「教育のICT元年」として、授業や行事を始め、先生方の各種会議や研修会など、様々な場面でICTを活用する機会が増えました。今年度もそうした状況は変わらず、ICT機器を使いこなせるように本校でも積極的に校内研修を重ね、効果的な活用方法について模索し、継続的に追求しているところです。

今年度からは、高校において新学習指導要領が年次進行で実施されました。社会に開かれた教育課程の編成やカリキュラムマネジメント、観点別評価の導入などとともに、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善も大きなポイントの一つです。社会の変化を背景に、これまでの「知識偏重型」の一斉授業から「思考重視型」の探究型授業への転換が大きな特徴です。そのような中、本校では「生徒が自らの気づきを大切にし、問いを発することで対話的で探究的な学びを展開するための授業改善」を研究主題として、年間を通して検証を行いました。研修部では今年、研究テーマを印刷した栞を全ての教員に２葉ずつ配布し、教科書に挟むなどしてもらうことで常に主題を意識した授業ができるように工夫してくれました。日常の授業では、タブレットを活用した探究的な学びの取組や、「見える化」を取り入れた主体的な学びのための動機付けなど、様々な工夫が見られました。また、11月には校内授業研修会を、県南地区高等学校美術教育研修会と併せて実施することができ、他校の先生方と意見交換をするよい機会となりました。

今後、人間社会を席巻するであろうＡＩは、入力された情報を整理し、再構成し、表現することは得意ですが、しかし、「問い」を作り出すことはできないとされています。アルゴリズムをもとにしたＡＩの判断は、膨大なデータを一瞬で集約した正確な最大公約数的分析結果ではありますが、アルゴリズムの組み方によってその答えは変わってきますし、「効率」を優先し、人間がもつ思いやりなどの「感情」が排除されて決済される社会は、決して住みやすい、よりよい社会とは無縁であると考えています。これからの社会が人間らしく、夢のある社会になるためには、ＡＩと共存することが大切であり、そのためには各々の人間力を高める必要があると思います。そのためにも人間が「問い」を発することは、深い学びの原点であり、よりよい社会づくりには必要不可欠な要素であると考えます。授業を通して、生徒には「問い」を発することができるような仕掛け、ゆさぶりをするとともに、そうした態度を育成していきたいと思っています。

今年度、教員免許更新制を廃止し、研修の受講記録と指導助言による研修を導入することを柱とした教育公務員特例法と教員免許法が改正されました。これにより、来年度からは、教員にはこれまで以上に探究心を持ちつつ主体的・計画的に研修を進めて行くことが求められます。先生方の全ての学びが生徒の育成に還元されることになります。これまでの教員生活を振り返り、客観的な視点で自らの資質・能力を再点検し、自分の強みを伸ばし、弱みを補うよい機会と捉えていただきたいと思っています。

結びになりますが、この研究紀要の原稿執筆や編集に携わっていただいた先生方に感謝いたします。また、私たちの研究についてお読みになっていただいた方におかれましては、色々と御教示いただければ幸いと存じます。

目　　次

《 巻 頭 言 》　　校　長　渡部　剛

目　　次

《　学　科　》

令和４年度総合学科アンケートの結果について　　総合学科主任　小笠原　宏　　1
農業科学科の取り組みと課題　　農業科学科主任　藤井　　亨　　5

《　職員研修・教科研修　》

令和４年度　研修計画　　研修部　　7
校外研修計画（総合教育センター）　　研修部　　12
校内研修計画　　研修部　　12
令和４年度第１回職員研修会　　情報管理部・研修部　　13
令和４年度第２回職員研修会　　情報管理部・研修部　　15
令和４年度第３回職員研修会　　研修部　　16
令和４年度 校内授業研修会
数　学　科　　19
芸術(美術)科　　23
家　庭　科　　29

《　研修報告　》

実践的指導力習得研修（３年目）を受講して　　国　語　科　　照井佳那子　　33

Ａ－３６研修講座を受講して　　生徒指導主事　　山本　博史　　34

Ｂ－６研修講座を受講して　　保健体育科　　永須　裕貴　　35

Ｂ－１３研修講座を受講して　　道徳教育推進主担当　　山本　博史　　36

Ｃ－３研修講座を受講して　　国　語　科　　照井佳那子　　37

《　実践発表　》

「秋田－ふるさとの文学を読む　～小林多喜二『蟹工船』の授業」
国　語　科　照井佳那子　　38

編集後記

学　　科

令和４年度総合学科アンケートの結果について

総合学科部

昨年度からGooglefoamを使ったアンケートを行い実施や集計が容易になったが、時期が遅くなったこともあり、74人中61人の回答となった。

総合学科にこだわらずに入学した生徒が増加しているが、入学後の学習、進路については概ね満足していると回答した生徒が多かった。

系列を決める時期については適切だという回答が多いながらも、自由記述では決定時期の早さ、科目選択の不自由さについての回答が見られ、今後もガイダンスには丁寧に取り組みたい。

回答人数

R2	R3	R4
74 人	51 人	61 人

【入学前・後の意識】

1 入学の際、「総合学科の高校」ということが学校選択の決め手になりましたか。

		R2		R3		R4	
番号		人数	割合	人数	割合	人数	割合
1	総合学科だから入学した	28	37.8%	28	54.9%	22	36.1%
2	どちらかといえば総合学科だから入学した	16	21.6%	9	17.6%	9	14.8%
3	特に総合学科だからという理由ではない	25	33.8%	11	21.6%	20	32.8%
4	総合学科だからという理由では全くない	5	6.8%	3	5.9%	10	16.4%
無回答		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

2 入学の際、「総合学科の高校」の特徴についてあなたはどのようなイメージを持っていましたか。（複数回答可）

		R2		R3		R4	
番号		人数	割合	人数	割合	人数	割合
1	一人一人に応じた指導をしてくれる	5	6.8%	7	13.7%	2	3.3%
2	自分の生き方を考える学習ができる	6	8.1%	4	7.8%	6	9.8%
3	多くの選択科目が開設されている	29	39.2%	31	60.8%	32	52.5%
4	自分の興味関心にあった学習ができる	33	44.6%	35	68.6%	40	65.6%
5	普通科目と専門科目をバランスよく学べる	6	4.1%	10	19.6%	15	24.6%
6	その他	3	0.0%	0	0.0%	2	3.3%
無回答		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

3 入学前と比べ、入学後に総合学科をどのように感じましたか。

		R2		R3		R4	
番号		人数	割合	人数	割合	人数	割合
1	期待通りだった	36	48.6%	17	33.3%	19	31.1%
2	やや期待通りだった	28	37.8%	29	56.9%	33	54.1%
3	やや期待外れだった	8	10.8%	3	5.9%	6	9.8%
4	期待はずれだった	2	2.7%	2	3.9%	3	4.9%
無回答		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

【産社・総合における「学び」】

4 産社・総合の時間を通して、入学時よりも自分自身について見つめ直すことができた。

		R2		R3		R4	
番号		人数	割合	人数	割合	人数	割合
1	とてもそう思う	30	40.5%	22	43.1%	20	32.8%
2	ややそう思う	38	51.4%	26	51.0%	32	52.5%
3	あまりそう思わない	6	8.1%	3	5.9%	8	13.1%
4	全くそう思わない	0	0.0%	0	0.0%	1	1.6%
無回答		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

5 産社・総合の時間を通して、入学時よりもこれからの生き方を考えることができた。

		R2		R3		R4	
番号		人数	割合	人数	割合	人数	割合
1	とてもそう思う	43	58.1%	23	45.1%	30	49.2%
2	ややそう思う	26	35.1%	25	49.0%	22	36.1%
3	あまりそう思わない	5	6.8%	3	5.9%	8	13.1%
4	全くそう思わない	0	0.0%	0	0.0%	1	1.6%
無回答		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

6 産社・総合の時間を通して、入学時よりも働くことに対して意欲がわいた。

番号		R2 人数	R2 割合	R3 人数	R3 割合	R4 人数	R4 割合
1	とてもそう思う	40	54.1%	25	49.0%	25	41.0%
2	ややそう思う	29	39.2%	19	37.3%	29	47.5%
3	あまりそう思わない	5	6.8%	7	13.7%	7	11.5%
4	全くそう思わない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

7 産社・総合の時間を通して、入学時より社会の出来事に問題意識を持つようになった。

番号		R2 人数	R2 割合	R3 人数	R3 割合	R4 人数	R4 割合
1	とてもそう思う	29	39.2%	17	33.3%	27	44.3%
2	ややそう思う	40	54.1%	33	64.7%	28	45.9%
3	あまりそう思わない	4	5.4%	1	2.0%	5	8.2%
4	全くそう思わない	1	1.4%	0	0.0%	1	1.6%
無回答		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

【系列・科目選択について】

8 系列や科目選択にあたって、学校側によるガイダンス（指導や説明）は十分でしたか。

番号		R2 人数	R2 割合	R3 人数	R3 割合	R4 人数	R4 割合
1	とてもそう思う	47	63.5%	25	49.0%	25	41.0%
2	ややそう思う	21	28.4%	23	45.1%	30	49.2%
3	あまりそう思わない	5	6.8%	3	5.9%	5	8.2%
4	全くそう思わない	1	1.4%	0	0.0%	1	1.6%
無回答		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

9 系列選択の時期は適切でしたか。

番号		R2 人数	R2 割合	R3 人数	R3 割合	R4 人数	R4 割合
1	早すぎる	25	33.8%	25	49.0%	21	34.4%
2	適切である	46	62.2%	26	51.0%	39	63.9%
3	遅すぎる	2	2.7%	0	0.0%	0	0.0%
4	その他	1	1.4%	0	0.0%	1	1.6%
無回答		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

10 系列選択は何を基準にしましたか。

番号		R2 人数	R2 割合	R3 人数	R3 割合	R4 人数	R4 割合
1	卒業後の進路	40	54.1%	35	68.6%	25	41.0%
2	興味・関心	27	36.5%	11	21.6%	24	39.3%
3	資格取得	5	6.8%	4	7.8%	11	18.0%
4	その他	2	2.7%	1	2.0%	1	1.6%
無回答		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

11 学年が上がる時に系列の変更を希望したいと思ったことはありますか。

番号		R2 人数	R2 割合	R3 人数	R3 割合	R4 人数	R4 割合
1	ある	18	24.3%	11	21.6%	15	24.6%
2	ない	47	63.5%	33	64.7%	41	67.2%
3	どちらともいえない	9	12.2%	7	13.7%	5	8.2%
無回答		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

12 選択科目の学習内容ははじめの期待通りでしたか。

番号		R2 人数	R2 割合	R3 人数	R3 割合	R4 人数	R4 割合
1	完全に期待どおり	31	41.9%	15	29.4%	14	23.0%
2	やや期待通り	37	50.0%	33	64.7%	36	59.0%
3	あまり期待通りではなかった	5	6.8%	3	5.9%	9	14.8%
4	全く期待通りではなかった	1	1.4%	0	0.0%	2	3.3%
無回答		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

13 12の回答の理由（主なもの）

1 自分が学びたかった学習ができたから
1 検定も多く受けられて力がついたと思った
1 自分の進路に役立つ勉強ができたから
2 難しい内容が多かった
2 もっと詳しく指導してもらえると思った
3 こんなにも検定が多いと思わなかったから
3 内容が難しかった

1：完全に期待通り　2：やや期待通り　3：あまり期待通りではなかった

14 開設されている科目のほかにどのような科目があればよいと思いましたか。

プログラミング
デジタル向けの芸術
工業科
倫理、哲学
看護
国際科

【進路決定について】

15 高校卒業後の進路はいつ決めましたか。

		R2		R3		R4	
番号		人数	割合	人数	割合	人数	割合
1	入学前	16	21.6%	7	13.7%	12	19.7%
2	1年次	11	14.9%	9	17.6%	7	11.5%
3	2年次	20	27.0%	19	37.3%	19	31.1%
4	3年次になってから	27	36.5%	16	31.4%	23	37.7%
無回答		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

16 進路は自分で学んだ科目を活かしたものになっていますか。

		R2		R3		R4	
番号		人数	割合	人数	割合	人数	割合
1	完全に活かされている	28	37.8%	13	25.5%	22	36.1%
2	ある程度活かされている	27	36.5%	25	49.0%	27	44.3%
3	あまり関係がない	11	14.9%	10	19.6%	8	13.1%
4	全く関係がない	8	10.8%	3	5.9%	4	6.6%
無回答		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

17 現在の進路についてどう思っていますか。
（複数回答可）

		R2		R3		R4	
番号		人数	割合	人数	割合	人数	割合
1	希望通りで満足	53	71.6%	40	78.4%	53	86.9%
2	希望通りではないが満足	17	23.0%	10	19.6%	11	18.0%
3	希望したものがなく、不満	0	0.0%	1	2.0%	0	0.0%
4	希望している進路はあるが、未定	2	2.7%	1	2.0%	0	0.0%
5	進路は未定	1	1.4%	1	2.0%	0	0.0%
6	その他	1	1.4%	0	0.0%	0	0.0%
無回答		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

18 【総合学科での学びを通して】
総合学科で学んで、自分自身を見つめ、将来について深く考えることができた。

		R2		R3		R4	
番号		人数	割合	人数	割合	人数	割合
1	とてもそう思う	54	73.0%	25	49.0%	33	54.1%
2	ややそう思う	18	24.3%	25	49.0%	26	42.6%
3	あまりそう思わない	2	2.7%	1	2.0%	2	3.3%
4	全くそう思わない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

19 自分の興味・関心に応じた時間割を作ることができた。

		R2		R3		R4	
番号		人数	割合	人数	割合	人数	割合
1	とてもそう思う	39	52.7%	19	37.3%	23	37.7%
2	ややそう思う	29	39.2%	27	52.9%	29	47.5%
3	あまりそう思わない	4	5.4%	4	7.8%	5	8.2%
4	全くそう思わない	2	2.7%	1	2.0%	4	6.6%
無回答		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

20 さまざまな体験活動を通じて、幅広い視野を養うことができた。

		R2		R3		R4	
番号		人数	割合	人数	割合	人数	割合
1	とてもそう思う	54	73.0%	28	54.9%	28	45.9%
2	ややそう思う	18	24.3%	23	45.1%	31	50.8%
3	あまりそう思わない	2	2.7%	0	0.0%	2	3.3%
4	全くそう思わない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

21 自分の好きなことをみつけることができた。

		R2		R3		R4	
番号		人数	割合	人数	割合	人数	割合
1	とてもそう思う	33	44.6%	22	43.1%	23	37.7%
2	ややそう思う	31	41.9%	22	43.1%	31	50.8%
3	あまりそう思わない	6	8.1%	7	13.7%	7	11.5%
4	全くそう思わない	4	5.4%	0	0.0%	0	0.0%
無回答		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

22 学ぶことの楽しさを感じることができた。

		R2		R3		R4	
番号		人数	割合	人数	割合	人数	割合
1	とてもそう思う	34	45.9%	17	33.3%	25	41.0%
2	ややそう思う	29	39.2%	27	52.9%	30	49.2%
3	あまりそう思わない	9	12.2%	7	13.7%	4	6.6%
4	全くそう思わない	2	2.7%	0	0.0%	2	3.3%
無回答		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

23 総合学科に学んで満足しましたか。

		R2		R3		R4	
番号		人数	割合	人数	割合	人数	割合
1	大変満足	45	60.8%	25	49.0%	27	44.3%
2	まあまあ満足	27	36.5%	21	41.2%	31	50.8%
3	やや不満	1	1.4%	2	3.9%	1	1.6%
4	不満	1	1.4%	0	0.0%	0	0.0%
5	他の高校へ行けばよかった	0	0.0%	3	5.9%	2	3.3%
無回答		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

24 総合学科高校の特徴的な仕組み（「産業社会と人間」「総合」の授業や、科目選択、系列など）について、改善した方がよいと思うことを自由に書いてください。

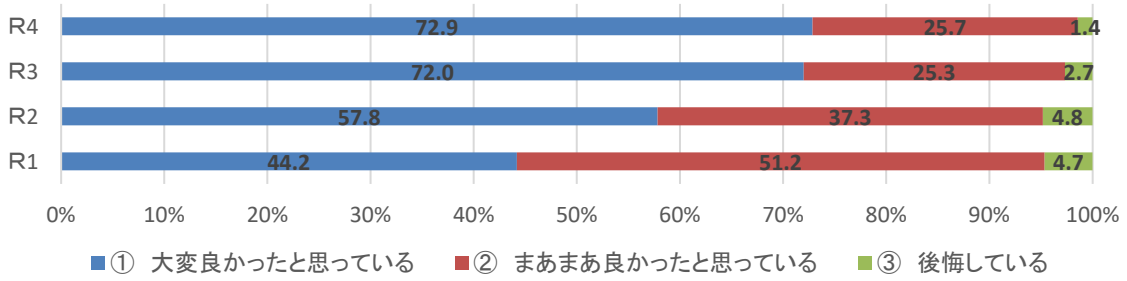
- 一年生での系列選択は早いと思った。早く決めるのであれば途中で系列を変更できるようにするなどした方が自分のなりたいものを見つけることにもつながると思う。
- パンフレットの授業内容をもっと詳しく書いてほしい。
- 系列を決める時期が早すぎるため選択に後悔している人が多い気がする。２年生になってから決めたほうが良い気がする。
- 大学のように基本授業以外は自分で選んで単位を取る方式だと色々なことに興味を持つこともできると思った。系列で分類をすると自分の知らない特技が見つからないこともあると思ったので、大学方式をやってみたかったと考えた。
- 系列決めにもう少し時間が必要。みんなが様々な検定を受けられるようにしたほうが進路の視野も広がると思う。

令和４年度農業科学科生徒アンケートの結果について

農業科学科主任　　藤井　亨

本アンケートは、農業科学科所属生徒の実態を把握し、教育課程の改善を推進するための基礎資料とするため、１７年間継続実施している。対象は農業科学科１～３学年全員とし、１～２月の期間で実施した。本稿では全１１問中６問の結果を抜粋し報告する。

１　あなたは農業科学科に入学してどう思っていますか。（%）

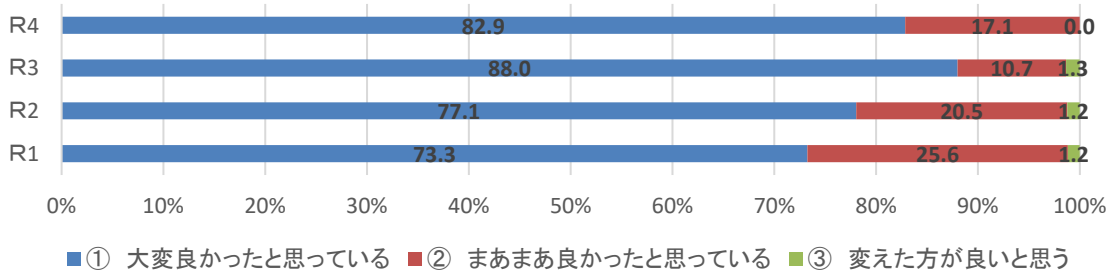


農業科学科に入学して「大変良かったと思っている」生徒の割合が７２．９%となり、３年連続して過去最高値となった。

２　あなたが農業科学科に入学した動機は次のどれですか（複数回答可）。（%）

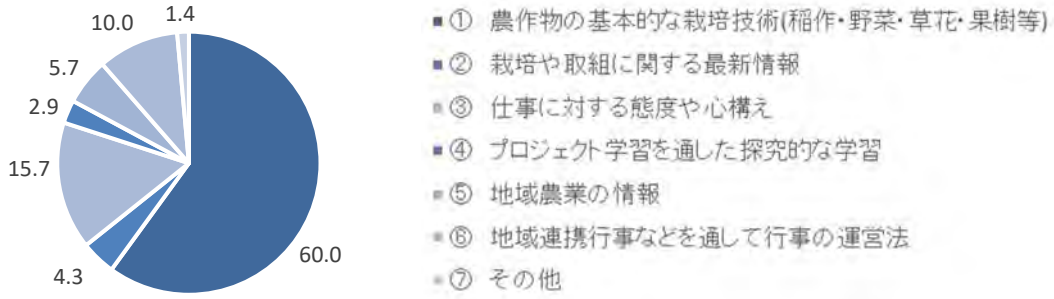
「農業に興味を持ったから」の比率が年々高まっており、５５．７%となった。今年度は中学生体験入学の体験学習を重視し、中学生目線で農業に対する魅力を感じることのできる内容となるよう、２コースとも高校生のアシスタントのもとで進行した。次年度以降も、参加した中学生にとって満足度の高まる内容となるよう改善していきたい。

３　農業科学科の農業学習は実験や実習が中心になっていますが、このことについてあなたはどう思いますか。（%）



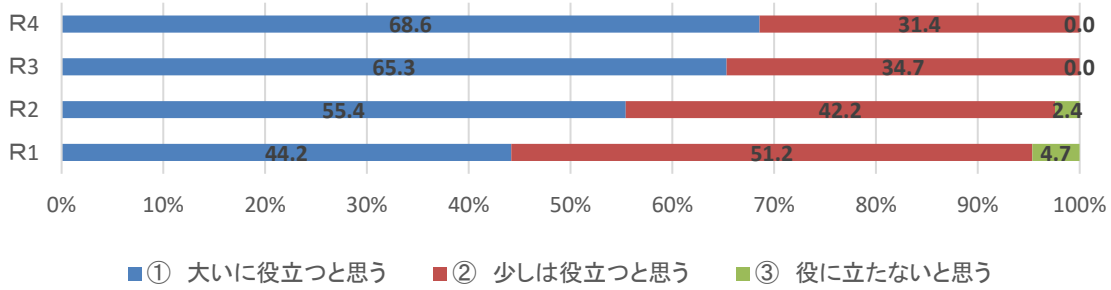
実験実習が中心で「良かったと思っている」生徒の割合が１００％となった。今後も実験実習を通して座学の学習内容を深化させるとともに、地域連携活動を通してコミュニケーション能力や企画力を高めるよう努めたい。

4　あなたは農業科学科でどんなことを学びたいですか。（%）



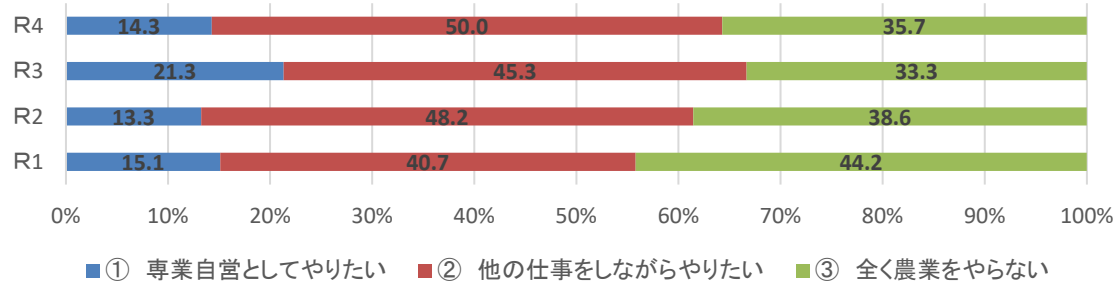
「農作物の基本的な栽培技術」のニーズが最も高くなった。しかしながら近年、日本農業技術検定の合格率が低下傾向にある。卒業時までの３級全員取得を目標として掲げながら、ＩＣＴ機器等の活用により視覚的に理解させるように努め、基本事項の定着を図りたい。

5　農業科学科で学んだことは自分の将来に役立つと思いますか。（%）



肯定的に捉えた回答が更に増加し、「役に立たない」という回答は２年連続で無かった。栽培技術の指導に加え、「農業クラブ活動」「地域貢献・地域連携活動」「知的財産教育」等の地域密着型の取組をもとに教育活動の更なる充実を図りたい。

6　あなたは将来、農業をやりたいと思っていますか。（%）



今年度、非農家の生徒は７１．４％を占めるまでに増加したが、６４．３％の生徒は何らかの形で将来農業に携わりたいと考えている。今後も「農業教育高度化事業」や「横手市農業インターンシップ事業」等を活用し、地域をリードする農業者との連携によるインターンシップや講話、先進的な技術の視察研修等を実施することで就農意欲の喚起に努めたい。

研修計画

令和４年度　研修計画

１　秋田県学校教育の目指すもの　＝　豊かな人間性をはぐくむ学校教育

Ⅰ　思いやりの心を育てる
Ⅱ　心と体を鍛える
Ⅲ　基礎学力の向上を図る
Ⅳ　教師の力量を高める

２　本校の教育方針と目標

教育基本法の精神に則り、平和的な国家及び社会の形成者としてふさわしい人間を育成する。この方針に従い、次のような人間を育成することを目標とする。
①　心身ともに健康で、思いやりのある心豊かな人間
②　自ら学び、自ら考え判断し、主体的に行動できる人間
③　正しい勤労観を持ち、郷土の発展に貢献する人間
④　社会の変化に柔軟に対応し、２１世紀をたくましく生き抜く人間

３　各学科の目標

①総合学科
多様な教科・科目を開設し、生徒の興味・関心に基づき選択履修させ、将来の進路への自覚を深める学習や個性を生かした主体的、体験的な学習を通して、社会の変化に柔軟に対応できる能力と態度を育成する。

②農業科学科
地域の農業の基幹である果樹と稲作を基礎として、生物生産と経営に関する知識と技能を習得させるとともに、地域の構成員として必要な資質を培い、地域農業の発展に寄与できる能力と態度を育成する。

４　重点実践目標

（１）学力向上と進路実現
①生徒の主体性を引き出す授業改善
ア　探求型授業スタイルの実践
イ　「見える化」を手立てとした分かる授業の展開
②生徒一人一人の多様な進路実現
ア　教育課程の見直し
イ　課題研究及び発表会(PSP)の充実

（２）全職員による生徒指導の充実
①生徒一人一人の見取りと実態に応じた対応の充実
②思いやりの心を育てる指導の工夫

（３）地域連携の推進と発信
①地域貢献および地域課題への取組
②ＨＰ等での積極的な情報発信

（４）特別活動を通した人間形成
①生徒会活動や学校行事等への積極的参加
②生徒の自己実現に向けた指導の工夫

５　令和４年度の目標　「元気な増田高校」づくりの推進

①　生徒を輝かせる教育活動
②　愛校心を育てる教育活動
③　地域連携を充実させる教育活動

６　職員研修の重点目標

課　　題	本年度の目標	具体的方策	研究主題
・生徒の主体性を活かした授業展開の工夫。	・職員の資質向上をはかる研修会を実施する。	・職員の要望を取り入れた実りある研修会を開催するために、関係分掌と連携を密にし、校内職員研修会を企画･運営する。	・生徒が自らの気づきを大切にし、問いを発することで、対話的で探究的な学びを展開するための授業改善。
・キャリア教育の視点に立った組織的な授業改善の取り組み。	・生徒の主体性を引き出し、探求的な活動を導くための授業改善に努める。	・互見授業を実施し、授業改善の手立てとする。 ＩＣＴ機器の活用実践例を共有することで、生徒の主体的、探求的な学習活動を促す。	
・教科横断的学力育成のためのカリキュラム・マネジメント。	・生徒の実態把握と支援のあり方について、共通理解をはかる。	・生徒の情報を共有し、必要な研修会への参加や各種研修会参加後の情報共有をはかる。	

７　各教科の重点目標

	課　　題	本年度の目標	具体的方策	研究主題
国語	・生徒の意欲的な学習態度をどのようにして引き出すか。 ・読む力、書く力、話す力の基礎の定着と活用の仕方。	・生徒が主体的に学習活動に取り組む姿勢を育てる。 ・学習習慣の確立による基礎の定着化。 ・国語の力を身に付け、良好な人間関係づくりの土台を築かせる。	・授業のねらいを明示し、それに応じた言語活動を行う。 ・週末課題、家庭学習など学習習慣の確立を通し、国語の基礎力定着を図る。 ・多様な表現活動を通じ、伝え合うことの大切さに触れさせる。	・「生徒の問い」を引き出し、「わかる」を実感できる「主体的、対話的、深い学び」の授業実践。 ・学習習慣の確立から、国語の基礎定着、学力向上につなげる授業のあり方の構築。
地歴公民	・基礎学力の定着。 ・社会的事象に関心と課題意識を持ち、自らの考えを積極的に表現する姿勢や能力の育成。	・基礎学力の養成・定着を図る。 ・課題の発見と探究活動を通して深めた知識や考えを、積極的に表現する姿勢や能力を育てる。	・小テストや授業プリント等を効果的に活用する。 ・ＩＣＴ機器等を活用し、社会的事象について考察させる。 ・発問や学習活動の場面設定を工夫し、生徒が意見を発表する機会を設定する。	・生徒の考えを引き出す効果的な発問や探究活動の場面設定のあり方を考える。
数学	・基礎学力の養成。 ・家庭学習の習慣化の徹底。 ・進学希望者の進路達成のための学力向上。	・基礎・基本の養成と定着を図る。 ・家庭学習の習慣化を徹底する。 ・個別指導の充実を図り、応用的な学力の定着を図る。	・生徒一人一人の実態に応じた適切な指導。 ・日常的な課題の作成と添削指導。 ・応用的な学習内容につながる授業展開と既習事項の確認及び指導強化。 （はしわたし授業、コンピュータの活用等）	・学習を通じて「見通す力」の涵養を促す指導法の確立。 ・自発的な学習態度を育成する効果的な指導法の確立。 ・新教育課程に対応した進度の確立（コンピュータの活用等）。
理科	・基礎学力の定着。 ・中高の学習法の接続。 ・科学的な思考力、自然を探究する能力や態度の育成。 ・進学希望者の進路達成のための学力の向上。	・思考の基礎となる基本事項を定着させる指導を行う。 ・実験・観察を通して探究活動を行い、課題を主体的に発見、解決する能力・態度を育てる。	・生徒の気付きを促す発問を工夫する。 ・身近な事象や日常生活との関わりを教材に取り入れる。 ・探究型の実験・観察を多く行うよう工夫する。 ・ドライラボを含め、情報を整理し考察させる経験をさせる。	・基礎・基本の定着とその活用能力を高める授業を展開する。 ・探究の過程・結果・考察を自分の言葉で表現する力を養う授業展開。

	課　　題	本年度の目標	具体的方策	研究主題
保健体育	・コミュニケーション能力を高める指導。 ・主体的・積極的な運動の実践を通して、楽しみながら知識や技能、体力を高める。 ・現代社会や自らの健康課題について考えさせる。	・新体力テストにおける体力ポイントの低い項目の強化を図る。 ・健康の保持増進のための知識、意志決定にもとづく適切な行動選択ができる能力を育てる。	・各種目と系統づけた体力を高めるための運動を継続して実践する。 ・練習方法や戦術等について、効果的に話し合いの機会や場面を設ける。 ・生徒の運動能力、興味や関心の現状を把握し、理解を深めるための教材や場づくりを工夫する。	・授業を通じた規律の定着と生徒の主体的な活動によって、健康的な将来につながる運動の実践。 ・ヘルスプロモーションの考えにつながる保健学習の充実。
芸術	・芸術への関心、意欲の喚起。 ・感性を高める指導。 ・豊かな情操を培う指導。	・芸術文化についての理解を深めさせ、生涯にわたって愛好する心情を育む。 ・感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を養う。	・芸術の幅広い活動の中に言語活動を適切に位置づけられるよう工夫する。 ・表現と鑑賞の相互関連を図りながら、能動的に学習を深められるよう工夫する。	・芸術を理解する喜びを感じられる指導。 ・感性と表現力の育成。
英語	・新学習指導要領に対応した授業をどのようにして作っていくか。 ・基礎学力をいかにして身につけさせるか。	・多様な音読指導により基礎基本の反復の習慣を身につけさせる。 ・小テストなどを効果的に行い、語彙力と表現力を身につけさせる。	・授業中に生徒が英語をできるだけ多く話す（読む）ことができるよう工夫する。 ・小テストで小さな目標をクリアさせることにより、達成感や自身を持たせるようにする。	・音読の指導方法の工夫。 ・苦手意識を持つ生徒に自信をつけさせる指導方法の工夫。 ・自ら英語を学ぼうとする姿勢の育成。
家庭	・自己の生活から課題を見出し、いかにして解決策を考える能力を身につけさせるか。	・資格取得の奨励ときめ細かい指導。 ・発問を通して、生徒の考えを引き出す。 ・問題解決するための基礎力として、知識と技術の定着を図る。	・日常生活に密着した実技や実習を取り入れる。 ・実生活に即した例題の提示や発問をする。 ・ＩＣＴ活用に合わせた教材を開発する。	・学んだ知識や技術が、実際の生活に生かされるような指導の工夫。 ・ＩＣＴ活用と教材の工夫。
福祉	・主体的に学ぶ態度の育成。 ・基礎的・基本的な知識と技術の習得。	・福祉に関する基礎的な知識と技術を習得し、福祉の心を育成する。 ・社会福祉への関心を高めさせる。	・教材の工夫と精選。 ・体験的な学習を効果的に取り入れた授業の展開。	・生徒の成長段階や興味関心に合わせた事例の選定と展開。
情報	・情報を収集、加工、発信し問題解決につなげるためにコンピュータを活用できる生徒の育成。	・情報社会の問題解決。 ・コミュニケーションと情報デザイン。 ・コンピュータとプログラミング。	・法規や制度及びマナーの意義、モラルなど科学的に捉える。 ・情報通信ネットワークのしくみ、ダー他の活用について理解する。	・情報技術を活用して問題の発見・解決する方法を身につける。
商業	・基礎的・基本的な知識と技術の習得。 ・経済活動や社会に対する興味・関心の喚起。	・自ら学ぶ意欲を向上させる。 ・資格を取得するために主体的に取り組む態度を身につけさせる。 ・地域産業への関心を高めさせる。	・教材の工夫・精選。 ・授業を通じた規律指導。 ・資格取得に向けた対策強化。 ・外部機関との連絡強化。	・ビジネス場面を想定し、即座に対応する実践的な能力を育成させる。 ・経済社会の発展に主体的に貢献する意欲を向上させる。
農業	・実験実習に対して主体的に取り組む態度の育成。 ・現場の課題を発見し、科学的に解決する力の育成。	・基礎的知識と技術を活用し、農業の振興や地域貢献に主体的に取り組む態度を身につけさせる。 ・実験実習を通して課題を発見し、合理的かつ創造的に解決する力を身につけさせる。	・実習やインターンシップ、各種地域貢献活動等の効果的な実施と工夫改善。 ・農業ＩＴセンサー、ドローンを含めた各種ＩＣＴ機器などの活用。	・実習や地域交流を通した生徒の主体的態度、実践力の涵養を促す指導法の工夫。 ・現場の課題を科学的に解決する手段として、ＩＣＴを効果的に活用した探究活動の実践。

8　学年部指導

	学年目標	重点目標	具体的方策
1 学 年	高校生としての基本的生活習慣・学習習慣を確立し、将来の進路を模索しながら適切な進路目標を設定する。また、社会において求められるコミュニケーション能力を養う。	1　生活三信条を徹底し、基本的な生活習慣を確立させるとともに、高校生として必要な学習習慣を確立する。	1について ・時間厳守、提出物の期限を中心に生活三信条を意識して生活を送らせる。 ・中学校の復習と遅刻防止を目的に、計画的に教材を選択して朝学習を実施する。 ・適切な課題を与え、予習を前提とした授業を展開することで、家庭学習習慣を定着させる。（英･数･国の授業の初回にガイダンスを行い、学習方法、予習･復習の仕方について説明する。）
		2　適切な進路目標を設定させ、その目標達成に向けて主体的に情報収集、学力向上に取り組ませる。	2について ・進路希望を明確にした上で系列選択ができるよう、適切に支援していく。 ・「産業社会と人間」、「アグリ・ナビ」を活用してキャリア教育を推進する。
		3　学校生活や学外での活動に積極的に取り組ませ、望ましいコミュニケーション能力を育成する。	3について ・生徒会行事､学校行事に取り組む上で、協力することの大切さを教える。 ・学校生活において、他者と意見を交換する場面や、自分の意見を発表する場面を通して、コミュニケーション能力を育成する。。 ・地域でのボランティア活動に積極的に参加させ、地域理解とコミュニケーション向上に役立たせる。
2 学 年	中堅学年にふさわしい基本的生活習慣・学習習慣を確立し、将来の進路目標を明確に設定する。また、社会人・職業人として必要なコミュニケーション能力を養う。	1　日々の授業と家庭での予習・復習を大切にさせ、更なる学力の向上を図る。	1について ・計画的に教材を選択して、朝学習を有効に活用する。 ・長期休業、週末等の課題の充実・適量化を心掛け、学習支援サービスを活用しながら家庭学習の充実を図る。 ・模擬試験の事前・事後指導を徹底する。 ・課題研究を通して、課題解決能力を身につけさせる。
		2　進路目標を明確に設定させ、その実現に向けて実力養成に取り組む。	2について ・個人面談により生徒の進路希望を把握し、適切な支援をする。 ・三者面談、保護者面談を実施し、保護者の意向を確認する。 ・進路指導部の「面接カード」を活用して、教職員間の連携を図る。 ・進路ガイダンス等を実施し、進路意識の高揚を図る。 ・進学希望者に対して、長期休業中のオープンキャンパスへの参加を促す。
		3　インターンシップや修学旅行等の様々な体験活動を通して、望ましい職業観やコミュニケーション能力を育成する。	3について ・インターンシップの事前・事後指導を徹底する。 ・修学旅行に向けた事前学習を充実させる。 ・普段の学校生活や進路・特別活動、学校行事などを通して、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を育成する。

	学年目標	重点目標	具体的方策
3 学 年	個々の生徒が最上級学年としての責務を果たしつつ、自己の進路目標の達成に向けて最後まで全力で取り組み、進路実現できるようにサポートする。	1 日々の授業と家庭での予習･復習により基本を定着させ、補習等を通じて実戦的能力を充実させて、進路達成に必要な学力の定着を図る。	1について ・朝学習・朝補習の内容を精選し、基礎事項の定着を図る。 ・放課後補習、添削により、実戦的な学力の養成を図る。 ・グリーンタイム等を活用して希望進路別の学習を行う。
		2 保護者との連携を密にして、生徒の学習へのモチベーションを保ち、進路達成につなげる。	2について ・個人面談により生徒の進路希望を把握し、適切な支援をする。 ・進路指導部の｢面接カード｣を活用して、教職員間の連携を図る。 ・進路ガイダンスや面接指導を行い、進路実現へ向けて意識の切り替えを図る。
		3 社会人として必要なコミュニケーション能力と自己管理能力を身につける。	3について ・面接指導、志願理由書の指導を通して、適切な表現力やコミュニケーション能力を育成する。 ・課題研究の立案、実施、まとめ、発表のプロセスを通じて、コミュニケーション能力と表現力の育成を図る。

９　校外研修計画（総合教育センター）

講座番号	講　　座　　名	職　名	氏　　名	教　科
Ａ２６	県立学校新任校長研修講座	校　長	渡　部　　剛	農　業
Ａ３６	高等学校新任生徒指導主事研修講座	教　諭	山　本　博　史	国　語
Ｂ０６	高等学校保健体育科授業の充実	教　諭	永　須　裕　貴	保健体育
Ｂ１３	高等学校道徳教育推進研修講座	教　諭	山　本　博　史	国　語
Ｃ０３	「話す力・聞く力」を高める国語科の授業づくり	教　諭	照　井　佳那子	国　語

１０　校内研修計画

・校内職員研修　　第１回：8/26【電子黒板の活用法】
　　第２回：9/21【オンライン授業のおける教材作成例】
　　第３回：1/23【危機管理】

・校内授業研修会　11月8日　数学科・芸術家（美術）・家庭科

・授業見学研修　　年間を通じて、他教科・自教科の授業見学をそれぞれ１回以上行う。

校内職員研修

令和４年度　第１回校内研修会　要項

研　修　部
情報管理部

１　目　　的　　電子黒板の活用方法を学び、今後の授業に活用し授業改善に役立てる。

２　対 象 者　　増田高校教職員

３　開催日時　　令和４年８月２６日（金）　　放課後１５：４５～１６：４５

４　場　　所　　１年４組教室

５　内　　容　　Ⅰ電子黒板の機能について
Ⅱ操作方法
Ⅲ生徒参加型アプリ利用例
Ⅳホワイトボードの動画視聴
Ⅴ無料ツール活用例
Ⅶまとめ

６　講　　師　　佐藤　誠先生　　＊研修部員・情報管理部員補助

７　そ の 他　　クロムブックを事前に準備し、各自ログインを済ませ、
クラスルームに入室しておく。　　＊クラスコード：gu3m7ctg

スマホでの参加も可能です。その際は、google classroom のアプリを入れておくと便利です。

参加可能な人数は２０～３０名となります。この日参加できない先生方には、後日追研修を実施します。（２回参加も可能です）

本日のメニュー

令和４年度　第２回校内研修会　要項

研　修　部
情報管理部

１　目　　的　　オンライン授業における教材の作成例と実際の配信について学び、
今後のオンライン授業時にいかす

２　対 象 者　　増田高校教職員

３　開催日時　　令和４年９月２１日（水）　　15：45 ～ 17：00

４　場　　所　　会議室

５　内　　容　　①英語の授業作成過程サンプルのプレゼンテーション（パワーポイント）
②実際のオンライン授業（１０分間）のデモンストレーション
③質疑応答

６　講　　師　　佐藤　誠先生　　＊研修部員・情報管理部員補助

７　そ の 他　　オンライン授業に備え、各教科で協議や教材作成への取り組みを進めてください。
教材作成のあたり、技術的な相談や対応が必要な場合は、情報管理部・研修部がサポートします。

令和４年度　第３回校内研修会　要項

研　修　部

１　目　　的　　事例検討を通じ相互に意識を喚起することで、危機管理能力を高める。

２　対 象 者　　増田高校教職員
（管理職・教諭・実習教諭・臨時講師・事務職員〈正規〉）

３　開催日時　　令和５年１月２３日（月）　　職員会議終了後　４０分間程度
＊当日は４５分授業とし、職員会議は１５時１５分に開始する。

４　場　　所　　会議室

５　講　　師　　亀沢　勉　教頭先生

６　方　　法　　小グループによる演習と講話

７　そ の 他　　４人程度でグループを形成

開　　会

あいさつ（教 頭）

教育環境設備や教育活動全般・またコロナ対応など学校教育現場のあらゆる場面で危機管理が求められる。身近な問題として教職員の不祥事を例に危機管理意識の再確認をしていきたい。

研修内容

①「不祥事防止ハンドブック」を活用し令和３年度の不祥事案件の確認
②県からの通知文より令和４年度の不祥事案件とその処遇について確認
③４つの事例をもとにグループ演習　　＊１事例につき二班ずつ
　事例１）酒気帯び運転・交通事故
　事例２）体夏・暴言
　事例３）個人情報の漏洩
　事例４）わいせつ・セクハラ行為等
④発表

協議内容のまとめ

事　例	班	発生原因・背景 問題点	事例の及ぼす影響	防　止　策
酒気帯び 運　転 ・ 交通事故	1 2	・翌日の予定や交通手段の確保不足 ・自身の適量・分解速度の 認識不足 ・交通安全への意識が低い	・社会的信用失墜 ・学校・同僚への職務的負担（事後対応・全職員の評価降落） ・家族・親族に及ばす金銭的影響 ・生徒・保護者に対する責任	・日常的な研修実施 ・２１時以降の飲み会はやめる ・飲み会の廃止 ・日常的注意喚起 ・家族からの注意やアルコールチェックの励行
体　罰 ・ 暴　言	3 4	・保護者の要望を鵜呑み ・保護者との関係性が希薄 ・生徒の反発を誘発するような高圧的な態度ではなかったか	・当該生徒とその保護者との関係の悪化 ・他の生徒・保護者との信頼関係にも影響	・生徒の主体性を育む指導法の見直し ・個人が特定される場合は表現に留意する ・後からではなく、その場ですぐに指導する ・保護者との信頼関係を築く

個人情報の 漏洩	5 6	・職場以外で仕事をしなければならなかった（多忙化） ・個人情報入りＵＳＢの持ち帰り禁止への意識低下 ・プライバシー保護意識の希薄	・社会的信用失墜 ・生徒、保護者のプライバシー侵害	・多忙化解消 ・管理職からの定期的な呼びかけ ・ＵＳＢ持ち帰りの際は、個人情報の削除 ・同僚間の仕事の進捗状況の確認・共有及び協力
わいせつ 行為	7 8	・私的なラインのやりとり ・個対個の指導 ・生徒への個人的感情	・生徒への心的影響 ・生徒に大人への不信感を抱かせてしまう ・教育相談機能の低下	・相談は複数対応 ・生徒の適切な距離感の取り方、教育公務員の自覚 ・個人的な感情を抱かない ・学年部や各文章との連携

講　評（校長）

教職員は、一般の公務員よりさらに高い意識を持って職務に専念しなければならない。懲戒処分等による損失は非常に大きい。当事者からの聞き取りによると、日常の注意喚起や研修会の内容について、「自分は大丈夫だ」という意識を持っていたようだ。

日頃から真摯な態度で注意や研修内容に耳を傾け、先生方同士でもお互いに注意を促し、気をつけていきたい。「一杯が二杯・・」「これくらいなら・・」と行動はエスカレートするのが人間の心理であるから、心理的な防御が行動の防御につながる。少しでも気になることがあれば相互に声を掛け合いながら、不祥事を起こさないよう職員全体で取り組んでいってほしい。

校内授業研修会

数学Ｂ学習指導案

日時　　：令和４年１１月９日（水）６校時
対象生徒　：２年２組　３５名
場所　　：２年２組教室
指導者　　：奥　　健悦
使用教科書　：改訂版『新編数学B』（数研出版）

１　単元名　　数学B　第３章「数列」　第１節「等差数列と等比数列」　１「数列」

２　単元の目標　　数列の意味を理解し、等差数列の初項、公差、一般項を求められるようにする。

３　指導に当たって

(1)単元観　　数列は、古くから関心をもたれている数学の分野である。自然科学や社会科学でも取り上げられ、数学の他の分野と密接に関連する重要なものである。小学校・中学校でも数の並びの規則性を考えさせる問題は多い。高校では、数学Bの数列は数学Ⅲの数列の極限の無限級数に関連している。
　今回授業するクラスでは、様々な数列を体験させ、等差数列という基本的な数列の初項、公差、一般項を理解して、その後の応用問題につなげたい。

単元計画　　第３章　「数列」　２５時間　（教科書：数研出版　新編数学B）

第１節　等差数列と等比数列　…　１０時間
　１．数列と一般項　（０．５時間）
　２．等差数列　（２．５時間）
　（本時１時間／３時間）
　３．等差数列の和　（２時間）
　４．等比数列　（２時間）
　５．等比数列の和　（２時間
　補充問題　・・・　（１時間）
第２節　いろいろな数列　…　１５時間

(2)生徒観　　授業を集中して受ける生徒が多いが、中学校時代から学習に不安を抱えているため考えを積極的に発言することは少ない。基本的な計算規則が苦手な生徒が複数いる。誤った式変形をすることも予想される。文字を使用した計算の過程を示す場合は、特に丁寧に示したい。
　本時は「数列」という新しい単元に入る。様々な例を考えさせ、徐々に生徒に慣れさせたい。「等差数列の一般項」について、初項や公差を、文字を用いて説明する。しかし、そのような抽象的な説明が苦手な生徒も多いと思われるので、具体的な数列で説明し、一般的な場合に向かって進めていく。

(3)指導観　　等比数列の和の公式の導出については、和をSとおき両辺に公比を掛けて、差を取ることにより導かれる。しかし生徒からそのような発想が出てくるとは考えられないので、導出は指導者が説明をする形で進めた。これは、生徒にできるようになってもらいたい。初項と公比から単純に和を求めるだけでなく、応用問題として整数の正の約数の和について考えさせる。その際一般的な場合についても思考を深めさせたい。

４　本時の学習活動

(1) 本時の学習目標（評価規準）　　与えられた数列の項が、どのような規則で並んでいるのかを考えようとする。
　自ら数列を考え、それを友人に提示し、考えを共有しようとする。
　等差数列の一般項を使用する良さを感じることができる。

【数学への関心・意欲・態度】
　自ら数列を考え、その規則を説明しようとする。
【数学的な知識・理解】
　等差数列の基礎的な知識を身につけ、課題解決に活用できる。

(2) 本時の指導にあたって　　本時は、導入部分において探究する姿勢を育む授業構成とした。等差数列の一般項（公式）を生徒自ら見出すのは難しいので、公式の導入は教授的に指導する。今後の授業で公式を利用した課題を設定し、理解を深めさせたい。

(3) 指導過程　{評価の観点・・・①関心・意欲・態度　②見方・考え方　③技能　④知識・理解}

	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入 (5分)	問題 次の数の並びがあります。（４～５問提示） 空欄に当てはまる数を考えましょう。		・４～５問程度、電子黒板で提示する ・教科書は開かない。 （観点①・②）
	本時の目標の確認	「数列」「項」「第〇項」等の用語を説明する。	
	目標　数列を考えて、その規則を説明しよう。		
		これから「数列」を学習していくことを伝える。	
展開① (20分)	課題①　自分で「数列」を考えましょう。 それをグループで示し、クイズを出しましょう。 （友達の数列の規則を考え、メモを取りましょう）		（観点①・②・④）
		・作業シートを配付（左側見本）。 ・作業シートの記入方法を説明する。（２分） ・自分で考える（５分） ・グループで共有する（８分） 面白いものを一つ推薦できるようにする。 ・ランダムピッカーを使用しグループにあてる。 ・自薦も推奨する。 ・書画カメラを使用し、全体で共有する（５分）	・グループでの共有の仕方や、全体での紹介の仕方を説明する。
展開② (20分)	課題②　次の数列の第１０項と第１００項を求めましょう。 ２，５，８，１１，……		
		・気がついた規則性から、第１００項を求めるための良い方法がないか考えさせる。 ・生徒からアイデアが出るのは難しい場合は、黒板で説明する。 ・文字でｎ番目の項を表せることを説明する。 ・第１００項を確認する。 ・電子黒板で「等差数列」「公差」「第ｎ項」、「一般項」という用語をまとめて説明する。	・第１００項を求める際に、全ての項を書き並べるのは効率が悪いと気づかせる。 ・生徒にノートにまとめさせる。
	課題③　次の等差数列$\{a_n\}$の一般項を求めましょう。 また、第１０項を求めましょう。 ７，３，－１，－５，……		（観点④）
整　理 (5分)	振りかえり	・本時の要点をノートに記入する。 ・新出用語を生徒に話させる。（黒板に書き出し）	・自分のノートと比較し、必要な用語を追記させる。

(4) 本時の評価

評価項目	評価の視点［判断基準］		努力を要する生徒への支援
	十分満足できる[A]	おおむね満足できる[B]	
関心・意欲・態度	自分の考えた数列がシートに記入されており、その項の並びについての説明も記されている。	自分の考えた数列がシートに記入されており、取り組む姿勢が見られる。	授業者の提示した例を参考にさせる。
数学的な知識・理解	等差数列の一般項を理解し、それを活用して、自力で課題を解くことができている。	初項や公差を把握し、公式に適用しようとしている。周囲のアドバイスを受けて解けている。	初項、公差の把握を促す。

令和４年度　増田高校授業研修会　記録

教　科（　数　学　）

研究授業実施日：令和４年１１月８日（火）　５校時
科目・単元名　：数学Ｂ・第３章　第１節「等差数列と等比数列」　１「数列」

授業者　　：奥健悦
授業参観者　：加藤政夫、土田哲也、佐貫修、大沼明子、菅原晴彦、山本博史
佐藤修耕、髙橋哲平、最上富雄

Ⅰ．授業者の感想

用語の説明等からのゼロからのスタートだった。生徒が受け身にならないよう、作問させたり説明しあうことのできる授業展開とした。２時間分の内容を１時間で実施するための時間配分であり辛うじて終えることができた。生徒の動きは予想以上に良く、グループワークなどにより、それぞれ活躍の場面をつくることができた。

Ⅱ．参観者の感想

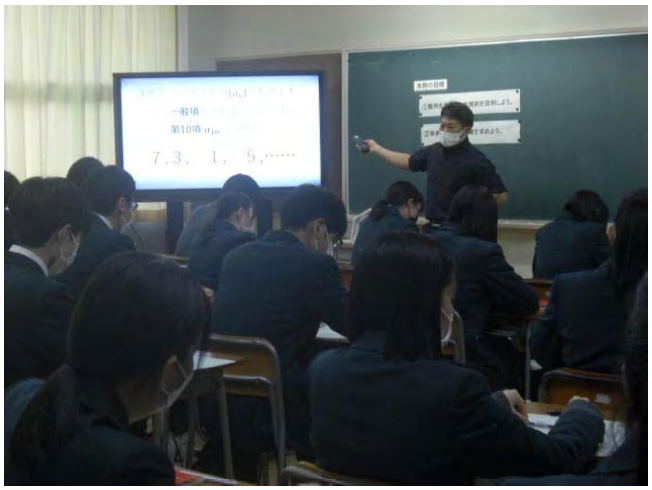
導入については、よく練られた問題をテンポ良くクイズ形式で出題し、生徒は楽しんでいた。考えさせる時間の配分が適切だった。生徒が目的意識を持ち、対話的で主体的に活動できていた。

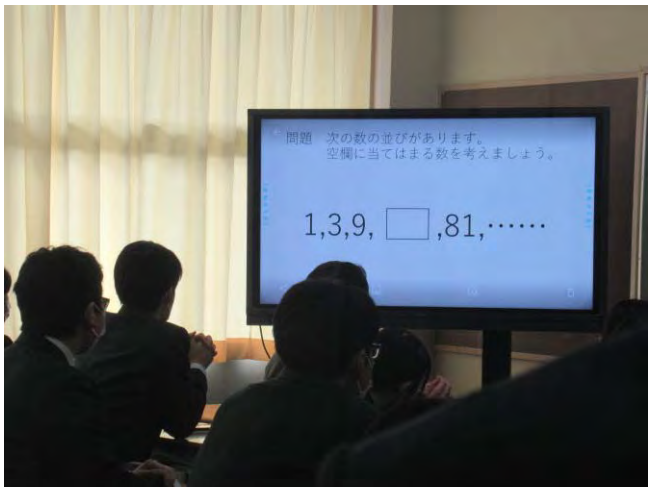
展開の前半については、板書しないとの宣言通り電子黒板等の機材を活用し、生徒がわかりやすくかつ振り返りやすいよう入念に準備され、説明の時間を短縮し生徒の時間が確保されていた。短い制限時間を提示しても生徒が動き、日頃の指導の成果が現れている。相手の話を聞く姿勢が身についており、拍手による意思表示ができていた。生徒が作問し説明し合う場面を設け、他者との関わりの中で考えを深めることができていた。

展開の後半については、進度が増し、生徒に考えさせ気付かせる場面がもう少しあればと感じた。

Ⅲ．授業改善に向けた提案

内容の絞り込みと、考え表現し検証する時間の確保や使い方、及び今後の授業による定着のための手立てを講じる必要がある。


7,3, 1, 5,……


問題　次の数の並びがあります。
空欄に当てはまる数を考えましょう。
1,3,9, □ ,81,……

芸術科（美術Ⅰ）学習指導案

日　時：令和４年１１月８日（火）５校時
場　所：彩色デザイン室
対　象：１年１組　１６名
授業者：小笠原　宏
教科書：美術１（光村図書）

１ 題材名 「立体をとらえる」（Ａ表現　絵画･彫刻）

２ 題材の目標

（１）知識及び技能

・ 形や色、材料、量感や質感、動勢などの造形的な特徴などをもとに、ものの存在感を全体のイメージや作風などで捉えることを理解する。
・ 意図に応じて材料や用具の特性を生かし、立体表現の方法を工夫して主題を追求する。

（２）思考力･ 判断力･ 表現力等

・ 身近な事物から主題を生成し、材料の特性を生かし、質感や量感、動勢などについて考え、表現する。
・ 彫刻の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考える。

（３）学びに向かう力、人間性等

・ 主体的に身の回りの事物を見つめ、そこから見出した存在感を彫刻に表現する活動に取り組む。
・ 主体的に立体表現の特質や美しさを感じ取り、その意図や表現の工夫について考える活動に取り組む。

３ 題材と生徒

（１）題材観

彫刻は立体表現として大事な分野であるが、素材の制約（加工の困難さ、道具の準備、材料費、制作時間など）から扱いにくい題材といえる。今回取り扱う「発泡スチロール（スタイロフォーム）」は建築の断熱材に使われるもので、ナイフなどで簡単に加工できることや、ホームセンターなどで安価に手に入ることなどから、いくつかの制約を解消できると考えた。素材そのものの魅力に欠ける点は、着彩することで造形的な発展につなげられると考える。さらに加工の容易さは大胆な形の制作を可能にして、思考の自由度を広げることにも役立つと考えられる。

（２）生徒観

農業科学科の生徒は比較的元気がよい生徒が多く、反応が分かりやすかったり質問があったりして活発なクラスである。しかし個々に見れば、思考の深まりや発想の広がりの不足、技術的な未熟さが目立つ生徒も多く、丁寧に接しつつ、生徒がお互いに助け合うようにしながら学習を進めたい。

（３）指導観

本題材では彫刻作品を制作する活動を通し、ものの形態の空間的な把握と表現、意図に合わせた表現の工夫について学習したい。指導は次のような計画で行う。

①立体的な思考について：平面と立体のつながりについて試作を通して理解する。
②制作の実際的方法について：試作時に道具の扱いや素材の特徴について理解する。
③主題の生成と作品の構想について：身近なテーマから主題を見つけ、立体化の方法を探る。
④実制作と振り返りについて：立体表現の魅力を発見し、芸術に親しむ資質･能力を育む。

４ 題材の評価規準

知識･ 技能	思考･ 判断･ 表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 形や色、材料、量感や質感、動勢などの造形的な特徴などをもとに、身近なモチーフの存在感を全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。 ・ 意図に応じて材料や用具の特性を生かすとともに、立体であらわす表現の方法を工夫し、主題を追求して創造的にあらわしている。	・ モチーフを見つめて感じ取った存在感などから主題を生成し、材料の特性を生かし、質感や量感、動勢などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。 ・ 存在感のある彫刻の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。	・ 主体的にモチーフを見つめ、感じ取った存在感をもとにした表現に取り組もうとしている。 ・ 主体的に、存在感をあらわす彫刻の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考える鑑賞に取り組もうとしている。

5 指導と評価の計画

時	学習活動	知・技	思	態	評価方法・留意点等
1時	①立体的な思考について・その１ 彫刻作品の種類、特徴について知る。 ・教科書や映像などを参考に彫刻について知る。		鑑	態 鑑	態：形や色、材料、量感や質感、動勢などの造形的な特徴に興味を持っている。 鑑：彫刻の造形的なよさや美しさを感じ取り、創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。 【活動の様子】
1時	②制作の実際的方法について 彫造について知る。 ・材料を削って作る方法の特徴を知る。 ・簡単な形を削って作る。	技			技：意図に応じて材料や用具の特性を生かすとともに、立体であらわす表現の方法を工夫している。 【作品】
1時 本時	①立体的な思考について・その２ 平面図、等角図を見て立体を想像し、材料を加工して表現する。	技	発	態表	技：意図に応じて材料や用具の特性を生かすとともに、立体であらわす表現の方法を工夫している。 発：材料の特性を生かし、量感、面などについて考え、効果的な表現の構想を練っている。 表：主体的に立体表現の工夫について考える活動に 取り組んでいる。 【作品、学習記録】
1時	③主題の生成と作品の構想について 彫刻の下絵を描く。 ・様々な彫刻を鑑賞し、モチーフとなりそうな主題を見つけるための工夫について見方や感じ方を深める。	知	発		知：形や色、材料、量感や質感、動勢などの造形的な特徴などをもとに、身近なモチーフの存在感を全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。 発：モチーフを見つめて感じ取った存在感などから主題を生成し、材料の特性を生かし、質感や量感、動勢などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。 【活動の様子、作品】
4時	④実制作と振り返りについて 作品を制作し、相互に鑑賞する。 ・彫刻制作と着彩。 ・作品の撮影、相互鑑賞と振り返りの記録。	技	発	態 鑑	技：意図に応じて材料や用具の特性を生かすとともに、立体であらわす表現の方法を工夫し、主題を追求して創造的にあらわしている。 発：チーフを見つめて感じ取った存在感などから主題を生成し、材料の特性を生かし、質感や量感、動勢などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。 態：主体的に彫刻の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考える鑑賞に取り組もうとしている。 【活動の様子、作品、学習記録】

（知）＝「知識・技能」の知識に関する評価規準
（技）＝「知識・技能」の技能に関する評価規準
（発）＝「思考・判断・表現」の発想や構想に関する評価規準
（鑑）＝「思考・判断・表現」の鑑賞に関する評価規準
（態表）＝表現の「主体的に学習に取り組む態度」に関する評価規準
（態鑑）＝鑑賞の「主体的に学習に取り組む態度」に関する評価規準

6 本時の計画 （８時間中の３時間目）

（１）本時の目標

・テーマから感じ取った立体感などからイメージを生成し、量感、面などについて考え、表現することができる。

・意図に応じて材料や用具の特性を生かすとともに、立体表現の方法を工夫している。

（２）本時の展開

時間	生徒の学習活動	指導上の留意点	評価の観点・評価方法
導入 １０分	・平面から立体を想像する方法、用具の使い方を理解す る。	・平面図と等角図の関係から立体物を想像する方法を説明する。 ・作業の安全について確認する。	・立体を想像し、制作する活動に主体的に取り組もうとしている。 【活動の様子】
展開 ３０分	・制作する立体の平面図をよく観察する。 ・平面図から等角図（俯瞰図）を想像する。 ・等角図から立体の形態をつかみ、発泡スチロールで試作する。 ・グループで立体の形について意見を交換する。 ・平面図を変えて難しい形に挑戦する。	・平面図の向きや線の方向、関係など注意点を確認する。 ・等角図は影などをつけて立体感を出す。 ・制作方法は書画カメラの映像で手元を分かりやすく見せる。 ・互いの制作方法の違いに注目する。 〔発問〕図で表した、どの部分が削るべきところか？	・平面と立体のつながりについて思考し、表現しようとしている。 ・形態に応じて材料や用具を適切に使い、立体を表現する方法を工夫している。 ・他の生徒と考え方や制作方法について学び合っている。 【活動の様子、作品】
まとめ １０分	・作品を撮影し、クラスルームの課題に振り返りの記録をとる。 ・平面図が立体を考える手がかりとなることを理解する。	・彫刻の制作過程で行うデッサンとの関連を示し、平面から立体を考えることの意義を確認する。	・制作の経験から立体的な思考の方法について気づきがある。 【学習記録】

令和４年度　増田高校授業研修会　記録

教　科（　芸術　）

研究授業実施日：令和４年１１月８日(火)　５校時
科目・単元名　:「立体をとらえる」（A表現　絵画・彫刻）

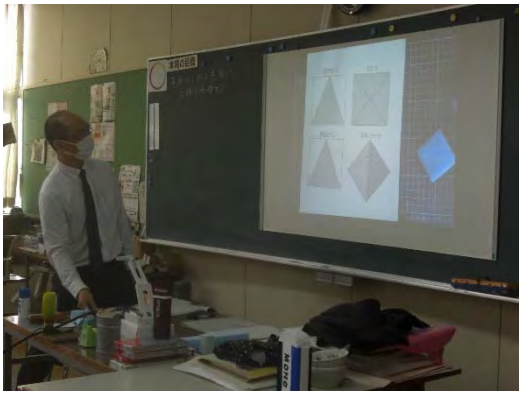
授業者　　：　小笠原　宏
授業参観者：　深井 裕之（秋田南高等学校・副校長），糯田 亜希子（横手城南高等学校・教諭），
遠藤 研二（横手高等学校・臨時講師），田口 朋美（横手清陵学院高等学校・教諭），
天ヶ谷 純一，奥山 美穂，押切　信人，永須　裕貴，村上 佳尊，鈴木 邑

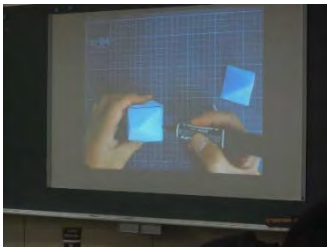
Ⅰ．授業者の感想

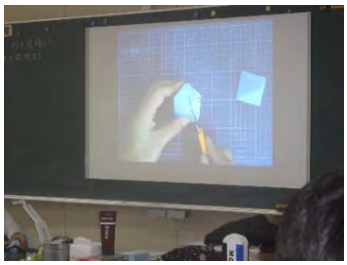
毎年取り組んでいるテーマであり、ここ最近は今回のような「スタイロフォーム」という材料を使用している。「彫刻」の分野はハードルの高さ、材料や加工の困難さなどがあり、他校でも工夫して実践されているところと思う。今回扱った「スタイロフォーム」は思い描いたように形を表現しやすい材料で、イメージを立体という形でサッとスケッチするように加工できる。この題材で時間をかけて取り組みたいところは、生徒が個々に主題を練ってどんな表現ができるかを構想すること。今日は、その最初の部分である立体的思考を扱ってみた。少しバタバタした感じもあったが生徒たちは熱中して取り組んでくれた。時間配分や課題の出し方の工夫、もう少し対話的な活動の促しなどができたら良かった。美術では、生徒たちが「あぁ、そうか」「わかった」という場面が少ない。それでも生徒たちが共通して理解を深められること、美術でも実践できることをめざしている。今日は少し偏った場面であったかも知れないが、たくさんのご意見をいただきたい。

Ⅱ．参観者の感想

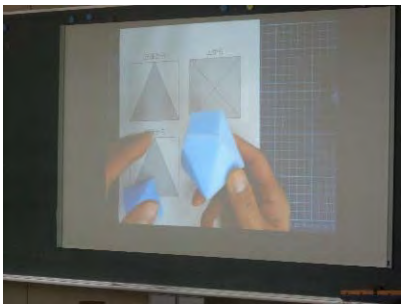
・先生の落ち着いた話し方で、解説も分かりやすい。
・丁寧な指示や助言・働きかけが良かった。
・平面を提示したことで想像力がわく。
・図面と実物を照らし合わせて解説していた点が良い。
・生徒の実際の失敗を例にしていたが、図から自分の想像していたものとの違いへの気づきになっていた。
・「課題１」の完成後の更なる課題を提示したことで生徒のやる気を引き出していた。
・斜め上からの図を見せないことで、想像力をかき立てていた。







・映像を使用していて、全体に説明するとき、見やすく分かりやすかった。
・適宜タブレット・書画カメラを使った分かりやすい授業だった。
・授業の成果をタブレットで残すことはとても良い。
・カメラで記録を撮らせるとき、「形が分かりやすいように斜め上から撮りましょう」というアドバイスがよかった。
・材料の選択が良い。スタイロフォームという使いやすい素材を利用している。題材が適切であった。
・教師の作品を教室の中に展示していて良かった。モチベーションアップにつながる。
・カッターの使い方に関して、生徒に安全な方法をきちんと教授していた。
・追加の課題が難しくなった（レベルアップした）。
・一つ目の課題が直線的で簡単に形作られたので自信が付いたようで次の制作への意欲になった様子である。
・ステップアップしていくため、はじめから失敗の心配をしなくてもいい。「失敗しても大丈夫」がよい。
・サイコロ状のスタイロフォームに線を入れていく場面で、生徒同士の教え合いがあり良かった。
・すでにスタイロフォームで制作し、着色している作品がいくつか教室にあった点が良い。生徒がイメージしやすい。



Ⅲ．授業改善に向けた提案

・先生の実演の際は注目させた方が良いと思う。見本となる技術であるため。
・四角錐を先生が作ってみせる場面で、生徒とのやりとりがあると生徒の考えも深まるのではないか。
・生徒に考えさせるのではなく、授業者が自分でやってしまっている場面があった。「これってどうなるんだろう」と問い、一回言語化させることも立体を想像させられるのではないか。
・作品の写真を撮るとき、「特徴が分かるように」と言って生徒に任せてみてもよかったのではないか。
・全体を見回りながら助言等の働きかけがもう少しできれば良かった。
・教科書の投影が小さく、見えにくかった。教科書の QR コードを使ってタブレットで表してみてはどうか。
・生徒同士で話し合う時間をまとめてとっても良かった。一人で作業している時間が多かったように思う。
・振り返りの時間として、写真だけでなく言葉による反省をスライドにまとめさせていくと、毎時間の記録を継続させることで、流れや成長が見えるのではないか。
・書画カメラを扱って見本作品を提示する場面で、例えば作品見本の底の部分に色づけがあると理解しやすかったと思われる。

家庭科（家庭総合）学習指導案

実　施　日：１１月８日（火）
対象クラス：2 年生活福祉系列 11 名
授　業　者：福田　菜摘
使 用 教 室：家庭経営室
使用教科書：家庭総合（東京書籍）

1　単元名

子どもと共に育つ

2　単元目標

（１）子どもの生活について関心を持ち、問題解決的な学習を通して主体的に学習活動に取り組む。（関心・意欲・態度）
（２）親や家族が子どもの生活習慣の形成、健康管理と安全、食生活、衣生活、遊びについて、子どもとどのように関わったらよいか、保育の在り方について思考を深め、親や家族が果たす役割について適切に判断し、表現できる。（思考・判断・表現）
（３）乳幼児の心身の発達の特徴を踏まえて、乳幼児と適切に関わろうとしている。（技能）
（４）乳幼児の生活についての概要および、乳幼児期には基本的な生活習慣の形成が重要であることを理解し、親や家族が子どもと関わる際に必要な知識を身に付ける。（知識・理解）

3　単元と生徒

（１）生徒観

意欲的に授業に取り組むことができ、クラスメイトと協働して活動ができる生徒が多い。考えをまとめることが苦手な生徒でもグループワークや共有の場を設けると、他者の考えを参考に意見をまとめることができる。全体的に受け身の生徒が多いため、主体的に取り組むことができる授業展開を組み立てる必要がある。

（２）教材観

子どもは生活の中で人との関わりを通して育つことから、最も身近な存在である親や家族が子どもとどのように関わったらよいかなどの保育の在り方について考えさせるとともに、親や家族、家庭生活が果たす役割について認識させる。また、乳幼児の心身の発達のためには発達段階に応じた適切な保育が重要であることに気付かせるとともに、乳幼児の生活について、遊び、基本的生活習慣の形成、食事、健康管理と安全などの概要を理解させたい。

（３）指導観

単元の導入で保育人形を新生児に見立て、抱っこ体験を行い、保育分野の学習への意欲を高めたい。また、予備知識があまりない状態で体験をさせることで、まだ首のすわっていない乳児を安全に抱っこするにはどうしたらよいか、親としての適切な関わり方などをグループで協働させながら主体的に考えさせたい。

さらに、乳幼児の動画を見せたり、活動の際には具体的な場面設定をしたり、生徒の持つ子どものイメージをより具体的にさせていきたい。また、グループワークや互いの考えを伝えあう活動を取り入れ、自らの考えや集団の考えを発展させ、乳幼児の生活についての理解を促したい。これらの活動を通して、親や家族が子どもとどのように関わったらよいかなどの保育の在り方について、生徒自身が考え、答えを見付けられるように指導していきたい。

4　単元の指導計画と評価計画

（１）指導計画（本時　1／７）

時	学習内容	評価規準			
		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
1 本時	新生児との関わり方を考えよう		子どもの発達段階に応じた関わりができるように、自己の課題を設定することができる。		
2	子どもの育つ力を知る～乳児の心身の発達～			乳児の心身の発達の特徴を踏まえ、乳児と適切に関わろうとしている。	乳児の心身の発達について理解している。

3	子どもの育つ力を知る～幼児の心身の発達～				幼児の心身の発達について理解している。
4	子どもの育つ力を知る～遊びの発達～		子どもにとっての遊びの重要性を説明できる。		
5 6	親として共に育つ～子どもの生活と保育～	子どもの食生活や衣生活について関心を持ち、適切な親の働きかけについて考えを深めようとしている。	乳幼児の心身の発達の特徴を踏まえた親の働きかけについて考えることができる。		乳幼児の病気の早期発見や事故予防の重要性を理解している。
7	これからの保育環境	子どもを取り巻く環境や子育てにおける課題に関心を持ち、課題解決に向けて考えようとしている。			

5　本時の計画

（1）本時のねらい

子どもの発達段階に応じた関わりができるように、自己の課題を設定することができる。（思考・判断・表現）

（2）学習過程

	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 4 分	1　本時の学習活動に見通しを持つ。 2　本時の目標を確認する。 本時の目標：子どもの発達段階に応じた関わりができるように、自己の課題を設定しよう。	・愛着を持って世話ができるよう、保育人形に名前を付けさせる。	
展開 40 分	3　保育人形の抱っこ体験を行う。 4　新生児の特徴を知り、新生児との適切な関わり方について考える。 5　保育人形の抱っこ体験を行い、適切な関わり方ができたか自己評価する。	・生徒が集中して活動に取り組むことができるように、周囲の生徒には冷やかしやからかい等はせず、応援するよう指導する。 ・首とお尻を支えて抱くことが重要だと気付くことができるように、新生児はまだ首がすわっていないことや寝返りができない状態であることを伝える。 ・安全な抱っこのポイントと保育者の態度について考えさせる。 ・グループの他の生徒に体験の様子を撮影させる。 ・撮影した映像を見て、安全に抱っこできたか、声かけを行うことができたかを自己評価させる。	
整理 6 分	6　今後の授業への課題を設定する。	振り返りの視点 今回の授業で見つけた自己の課題を具体的に記入しよう ・次時の予告をする。	・子どもの発達段階に応じた関わりができるように、自己の課題を設定できたか。（ワークシート、観察）

令和４年度　増田高校授業研修会　記録

教　科（　家庭　）

研究授業実施日：令和４年１１月８日(火)　５校時
科目・単元名　：家庭総合・子どもと共に育つ

授業者　　：　福田菜摘
授業参観者：　髙橋　洋、高橋由美子、藤井　亨、長嶋大樹、今藤　司、山代和也、
　　小林和成、藤田涼平

Ⅰ．授業者の感想

保育という単元の１時間目であったが、予備知識なくいきなり抱っこ体験をさせてみた。目指したものとして、新カリキュラムを意識した「自己の課題設定」と「できることとできないことを意識させる」ということであった。授業中の生徒は主体的にいろいろと気づき、試行錯誤していた。本時では、抱っこに関する技能は評価しないが、もう少しこちらから適切な抱っこの説明をしてもよかった。最後の振り返りでは、自己の課題設定はできているが、こちらが求めているものには到達していない生徒もいるので振り返りの工夫などがあれば教えていただきたい。

Ⅱ．参観者の感想

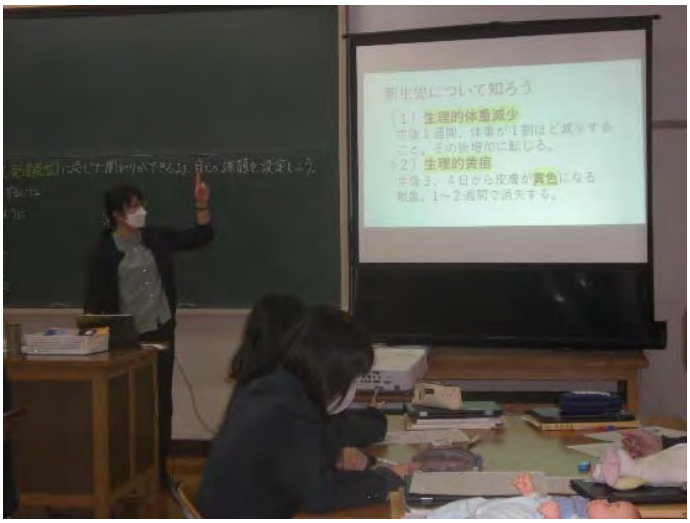
・導入の工夫されていた。目標の設定や提示法、中学とのつながり、「単元全体」の導入として見通しをもたせることができていた。
・目標が「自己の課題を設定する」というのは新たな視点であった。活動が明確で目標につながりやすい授業であった。
・ICT の活用がなされていた。タブレットで動画をとって自己評価、今後の評価に生かせるようになっていた。
・生徒が主体的に活動しやすい雰囲気の工夫がなされていた。音楽を流す、そのタイミングや音楽の選定、活動のルール設定などが素晴らしかった。
・ワークシートが分かりやすく、まとめやすいものであった。
・グループ学習やリフレクションなどを設けていてよかった。
・生徒の意見を生かした授業の流れであった。生徒が活動的・主体的であった。
・机間巡視をしてフォローしている。発言しやすい。

Ⅲ．授業改善に向けた提案

・目的意識を持つには「学ぶ必然性」を鮮明にする必要がある。体験を通しての「不安・難しさ・わからない」を共有することがもっと必要であった。

・生徒の活動や意見に具体性とリアリティを持たせるための工夫が欲しかった。具体的なシチュエーションを設定すればよりよかったのではないか。

・グループ内での相互評価など生徒同士のかかわり協働があるとよかった。



研修報告

実践的指導力習得研修（３年目）を受講して

国語科　　教　諭　　照井佳那子

１　本研修の目標

実践的指導力習得研修は、初任者研修を受講した教員に対し、「秋田県教員育成指標」及び「秋田県教職員研修体系」に基づき、実践的指導力や使命感を養うとともに、個々の教員が豊かな識見を身に付け、主体的に自らの力量を高められるよう実施する。

２　実施計画

実施月日		研修内容	実施月日		研修内容
4/27	(水)	学校教育目標と学級経営	6/8	(水)	部活動等の指導の在り方
4/28	(木)	教育相談の進め方 （生徒面談）	7/29	(金)	問題行動の事例研究
5/12	(木)	電子黒板の活用方法	12/21	(水)	互見授業
5/16	(月)	オンライン授業の進め方	1/12	(木)	本年度目標評価と次年度の計画

３　研修を通して

採用３年目となり、自らに求められる業務や役割を俯瞰的に判断し、行動に移すことを求められる場面が増えてきたように思う。実践的指導力習得研修は慌ただしく対応してしまいがちな日々の業務を自己内省し、新たな気づきや修正の機会を得る場として貴重な時間であった。
昨今の出来事を鑑みると、新カリキュラムの移行や校務支援システムの導入など、従来の授業や業務を見直し、大きく変化しなければならない局面を迎えており、新しいスキルや知識を獲得して今後の業務にいかしていく必要性を強く感じている。
勤続年数が長くなったとしても、現代的な教育課題についての最新情報や事例、研究内容などを獲得できるような自己研鑽の機会を積極的かつ計画的に設定していきたい。

Ａ－３６研修講座を受講して

生徒指導主事　　山本　博史

１　研　修　名　　Ａ－３６　高等学校新任生徒指導主事研修講座

２　研修の目標　　生徒指導主事としての必要な基本的事項と、各学校の生徒指導の状態に応じた具体的な対応の在り方について理解を深める。

３　開 催 日 時　　Ⅰ期　令和４年５月１３日（金）１０時００分～１６時１５分
　　Ⅱ期　令和４年９月２１日（水）１０時００分～１６時１５分

４　会　　場　　秋田県総合教育センター　２階中研修室

５　参 加 人 数　　１５名

６　日程の概要

〔　Ⅰ　期　〕

９：１５～１０：００　受　付

１０：００～１０：１０〈オリエンテーション〉
開講挨拶　　県総合教育センター　副主幹　田中　紀和

１０：１５～１２：００〈講義〉生徒指導主事の役割
県総合教育センター　指導主事　細谷　林子

１３：００～１４：３０〈講義・演習〉チームで取り組む特別支援教育
県総合教育センター　指導主事　加藤しお子

１４：４０～１６：０５〈抗議・演習〉事例を通した生徒理解と対応
県総合教育センター　指導主事　細谷　林子・加藤しお子

〔　Ⅱ　期　〕

９：１５～１０：００　受　付

１０：００～１２：００〈講義・演習〉いじめなど問題行動の理解と校内研修の進め方
県総合教育センター　指導主事　細谷　林子

１３：００～１６：０５〈講義・演習〉（A-34,35 と合同）
災害や事件・事故発生時における心のケア
東北医科薬科大学　病院准教授　福地　　成

１６：０５～１６：１５〈研修の振り返り〉

７　研修の振り返り・感　想

〔　Ⅰ　期　〕

生徒指導主事としての責務を感じつつも、周囲との連携をはかり、生徒一人ひとりはもちろん、全教員ともしっかり向き合いたいと感じた。様々な場面での教育活動、朝夕の登下校、授業、休み時間、部活動、学校行事など、生徒一人ひとりの言動に心を傾け、共有すべき全教員の共通理解のもと、まずは向き合うことの大切さを改めて知った。その上で、これまで以上に、学校経営の一翼を担う存在となっていきたいと考えるに至った。

〔　Ⅱ　期　〕

問題行動については、普段から生徒の言動にアンテナを張り巡らし、観察を通して微妙な変化や違いにも敏感になり、看過しないことが大切だと感じた。また、問題行動に関する校内研修の企画・運営を通して、それらを学校教育・生徒指導に還元させることが肝要だと感じた。

また、災害や事故等の不測な事態に、教員というより地域の一員として何ができるかを考えさせられた。教員の特質として、生徒の発達段階に応じて、いかに安全に導くべきかについても考えさせられた。ロールプレイでは、未経験の設定に戸惑う場面もあったが、落ち着いて対応することができた。さらに、相手に配慮し寄り添った言動・心のケアがいかに大切かを学ぶことができた。

本研修講座Ⅰ・Ⅱ期を終え、これからますます周囲との連携をはかり、生徒はもちろん先生方ともこれまで以上に向き合っていきたい。教育活動の様々な場面での関わりを通し、何よりも生徒一人ひとりの言動に耳も心を傾け、全教職員の共通理解と協力のもと、学校経営の一翼を担ってまいりたい。

Ｂ－６研修講座を受講して

保健体育科　　教　諭　　永須　裕貴

１　研修名　　Ｂ－６　高等学校保健体育授業の充実

２　研修の目標　学習指導要領の保健体育科の目標及び内容を具現化した授業づくりのための実践力を養う

３　開催日時　　令和４年７月１日　１０時００分～　７月１日　１６時１５分

４　会　場　　秋田県総合教育センター

５　参加人数　　１５名

６　日程の概要

１０：００～１０：２０　　開講行事・オリエンテーション

１０：２０～１２：３０　　講義・演習　『これからの保健体育科の授業づくり』
島本　知克　指導主事

１２：３０～１３：３０　　昼食・休憩

１３：３０～１６：０５　　実技・演習　『これからの保健体育科の授業づくり』
島本　知克　指導主事

１６：０５～１６：１５　　研修の振り返り

７　研修の振り返り・感　想

これからの保健体育授業の授業づくりにおいて、現在各高校で抱えている課題や問題点について協議することができた。そこで各高校において、ＩＣＴを活用した授業実践を模索している段階であることが情報として共有することができた。

また、午後の実技演習では５人１組で３班に分かれて授業の指導案を作成して、それぞれが模擬授業を展開した。各班の実践を通して、お互いの良かった点や改善点を共有し、これからの参考にすることができた。

今回の研修で学んだことを自校に持ち帰って、保健体育科内で伝達・共有して今後に活かしていきたい。

Ｂ－１３研修講座を受講して

道徳推進教師　　国語科　　教　諭　　山本　博史

１、研　修　名　　Ｂ－１３　高等学校道徳教育推進研修講座
２、研修の目標　　新学習指導要領の趣旨を生かした道徳教育についての理解を深めるとともに、道徳教育の実践的な推進力を身に付ける。
３　開 催 日 時　　令和４年６月１０日（金）１０時００分～１６時１５分
４、会　　場　　秋田県総合教育センター　２階中研修室
５、参 加 人 数　　２０名
６、日程の概要
　９：１５～１０：００　受　付
　１０：００～１０：１０〈開講行事・オリエンテーション〉
　　挨拶　県総合教育センター　主幹　谷内　直毅
　１０：１５～１２：００〈講義・演習〉道徳教育の今日的な課題と学習指導要領の改訂
　　県総合教育センター　指導主事　鈴木　紀子
　１３：００～１４：３０〈実践発表・協議〉道徳教育推進のための取組
　　県立横手清陵学院高等学校　教諭　沼倉　　健
　　県立秋田工業高等学校　教諭　湯澤　馨子
　１４：４０～１６：０５〈講義・演習・協議〉道徳教育の推進体制の充実
　　県総合教育センター　指導主事　鈴木　紀子

７、研修の振り返り・感　想

〈オリエンテーション〉
教育現場では、新型コロナ感染に伴う心のケアなどが道徳教育がのあり方も求められている。新教育課程では道徳教育において、体験的な作業が求められ、小・中学校では特別教科化「道徳」に伴う教育が展開されている。高校では道徳性を養うことを視野に、公民分野で「公共」が必修科目となった。しかし、推進教師を中心として全職員の協力のもと、組織的に計画的な作成に努め、その趣旨や活動の意義を、教育実践していく中で、発信していく必要性があることについて再確認があった。

〈講義・演習〉道徳教育の今日的な課題と学習指導要領の改訂
本講座では、「１道徳の特別の教科化の背景」「２道徳教育の確認」「３高等学校における道徳教育」「４道徳教育の充実」の４観点からの講義であった。特に、１では、「深刻ないじめの本質的な問題解決に向けて」というテーマで、東日本大震災を機に、「心の成長が遅くなっているのではないか」という指摘もあり、問題解決的で体験的な学習などを取り入れ、指導方法を工夫することが求められ、「考え議論する『道徳の授業』」の実践の意識付けが示された。

〈実践発表・協議〉道徳教育推進のための取組
（県立横手清陵学院高等学校　教諭　沼倉　　健　先生の発表から）
「課題提示⇒考察⇒自分ごとに焦点化⇒まとめ・振り返り」の授業の型を、中学校の道徳を、「まずは真似しながら、やってみる」の精神の実践は、日々の教育活動・授業実践にも通じると感じたし、シンプルによいキャッチフレーズだと感じた。
（県立秋田工業高等学校　教諭　湯澤　馨子　先生の発表から）
勤務校での「道徳推進教師」という立場から、道徳をどう組織化していくかを、各学年副主任らと構成・組織された「道徳推進班」の分掌会議を行い、それらが中心となって企画・運営・総括を行った職員研修の一連の流れについて、苦労し工夫された取組の実践例に関する事例発表であった。

〈講義・演習・協議〉道徳教育の推進体制の充実
４校１組で、他校の「道徳教育の全体計画」と自校を較し、自校の①良いところ、②改善すべきところにを提示し、③今後、「道徳教育の全体計画」をどう構築していくかについて、言及した。
従来と異なり、小中高、地域や企業との連携、「ＳＤＧｓ」の視点からもどんどん積極的な関わりを通した取組が必要となってくる。そのため、企業や地域、地域の隣接する学校との共通した道徳教育目標の提示があってもよいのではないかとという考えに至った。
最後に、今後の道徳教育では、「まずやってみる」の精神のもと、日々の教育活動において、「道徳的視点・領域で置き換えて実践してみる」ことが大切だと感じた。日々、各教科において道徳的視点での授業を意図的に行う一方で、全教職員での取組を本校でも積極的に行うべきである。

Ｃ－３研修講座を受講して

国語科　　教　諭　　照井　佳那子

１　研修の名称　Ｃ－３研修講座「話す力・聞く力」を高める国語科の授業づくり

２　本研修の目標

国語の「話すこと・聞くこと」の領域において、児童生徒の「話す力・聞く力」を高めるための実践的な研修を通して、指導力の向上を図る。

３　開催日時　　９月１６日（木）１０：００～１６：１５

４　会　　場　　秋田県総合教育センター

５　参加人数　　５人

６　日 程 の 概 要

１０：００～１０：１０オリエンテーション

１０：３０～１２：００講義・演習「話す力・書く力」を高める指導の在り方①

１３：００～１６：０５講義・演習「話す力・書く力」を高める指導の在り方②

（講師　秋田放送アナウンス部　賀内隆弘先生）

１６：０５～１６：１５研修の振り返り・感想

７　研修の振り返り・感想

本研修では、「話す力・書く力」を高める指導について講義と演習に参加した。「話すこと・書くこと」の指導は、新しい教育課程において授業時数が増加し、新しい時代に対応するコミュニケーションの資質・能力を養うものとしてニーズが高まっていると感じている。また、本校でも３年次の面接や、進路活動におけるプレゼンテーション発表、PSP の研究発表など、その能力を発揮しなければならない場は多い。今回の研修は国語の授業や HR において年間を通して体系的な指導を行うための手立てや、上手に話す・聞くための指導テクニックを学ぶという思いを持って臨んだ。

午前の講義では、小・中・高における「話すこと・書くこと」の目標や、年間指導計画にこれらをどのように設定するかという考え方について指導をいただいた。目標と学習活動の焦点をシンプルに絞って計画することや、小・中で求められるコミュニケーションの資質・能力は高校で求められるものとギャップがあることが理解できた。

午後の講義では秋田放送アナウンス部賀内隆弘先生から講話をいただいた。アナウンサー時代の経験を中心に、相手の会話を引き出すインタビューの仕方や、誤解の少ない話し方の工夫、発声練習の方法など様々な視点を得ることができた。繰り返しお話されていたことは、人前で話す経験の場数を踏む大切さである。スマートフォンでのやりとりが増えている現代において、授業や HR において意図的に発表の機会を設定することの必要性を実感した。

実践発表

令和４年度秋田県高等学校教育研究会学校図書館部会学校図書館研究大会

秋田県立増田高等学校　　教　諭　　照井　佳那子

１　日時　　令和４年１２月１６日（金）　１３：００～１６：００

２　会場　　明徳館ビル２階　カレッジプラザ講堂

３　発表題　　秋田県立増田高等学校における『蟹工船』の授業実践

４　実践の背景

ふるさとの文学について、本校生徒は知識が乏しく、認知度が低いことが明らかになっている。加えて今後の新課程では説明的文章や古典と比較して、小説など文学作品を扱う機会が減少する可能性も危惧される。また、将来の職や労働条件、そして自らの勤労観について１５、１６歳の生徒が、具体的に思考を深めることに困難を感じている現状がある。プロレタリア文学が節目を迎えるタイミングで『蟹工船』を教材開発し授業で扱うことは、ふるさと教育や生徒の勤労意識の醸成、小説を通した将来のキャリア形成の達成につながるのではないかと考えた。

５　実践の目的

・郷土文学を教材開発し国語の授業で実践するとともに、読解を通して親しむ。

・『蟹工船』から過去や現在の労働について考え将来の勤労観を養う。

・予測困難な時代において小説を学ぶ意味を問い直す。

６　実践の概要

対象生徒：１年国語総合（総合学科７８名）

教材：小林多喜二『蟹工船』　　単元：ふるさと文学『蟹工船』を読む(国語総合)

(引用本文「改訂秋田―ふるさとの文学」無明舎出版、「蟹工船・党生活者」新潮社)

時間	内容	活動
1	本文読解	（1）蟹工船の目的と使命を読み取る。 （2）登場人物たちの経歴や設定を読み取る。
2 3 4 5 6 7 8	本文読解 まとめ	（3）蟹工船の登場人物達の謎を考える。 （4）ロシア人との出会いの場面を読み取る。 （5）ストライキとは何かを読み取る。 （6）駆逐艦の真相を読み取る。 （7）終結部を読み取る。
9 １０	調べ学習	（8）秋田に縁ある文人を調べまとめる。

７　成果と課題

【成果】

・ＩＣＴを活用した小説読解の試みができた。

・生徒が主体的に読解できる国語の教材として『蟹工船』の可能性を実感できた。

・アンケート等で小説を学ぶ意義や郷土文学に対する理解の深まりを答える生徒が増加した。

【課題】

・授業外で本作品を手に取るような今後の読書活動への促し。

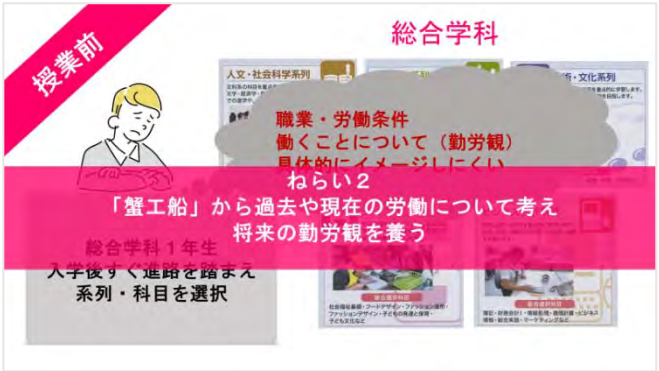
・文学や郷土に対する学びの発展と深化につながるような好奇心の醸成。

・国語の教材として本文編集内容や脚注・図等の補足情報の検討

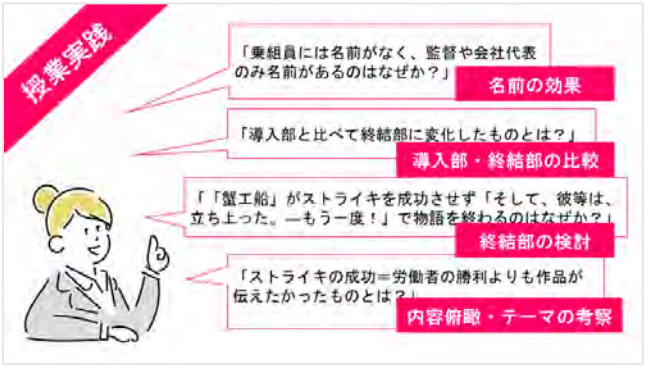
発表資料抜粋

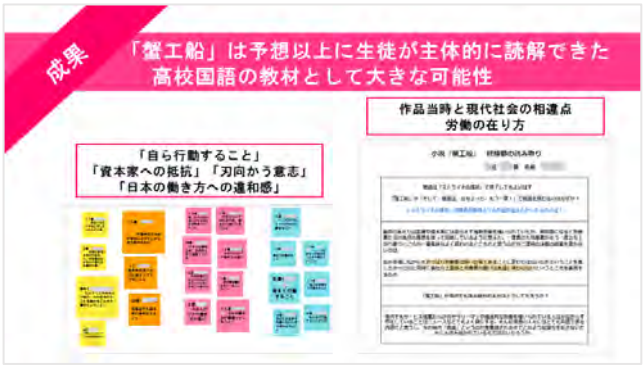
「蟹工船」の授業実践
～国語編～
秋田県立増田高等学校
照井佳那子
令和４年度秋田県高等学校教育研究会学校図書館部会学校図書館研究大会　12月16日

授業前
「秋田県の文学作品や作者について知っているか」
全く知らない　あまり知らない　すこし知っている
2.6%
ねらい１
郷土の文学を知る＆読む
ふるさとに関わる文学の認知度が低い
郷土文学について知識が無い
郷土文学を手に取る機会もない

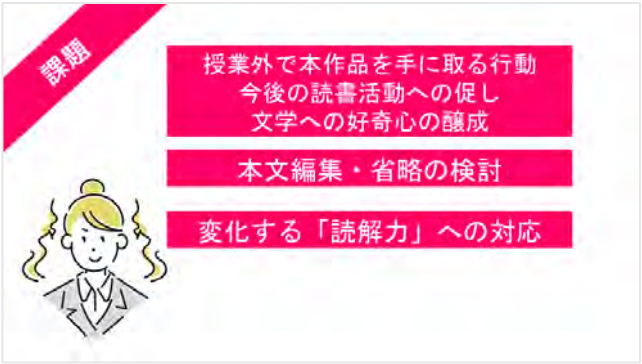

授業前
総合学科
職業・労働条件
働くことについて（勤労観）
ねらい２
「蟹工船」から過去や現在の労働について考え
将来の勤労観を養う
総合学科１年生
入学後すぐ進路を踏まえ
系列・科目を選択

授業実践
時期：令和３年９～１０月
科目：国語総合
対象：第１学年総合学科２～４組
本文読解①
・蟹工船の目的と使命
・登場人物たちの経歴や設定
・登場人物たちの謎
01
目標
・「蟹工船」から小説の構造や仕掛けを読み取る
・「蟹工船」をもとに現代の労働や秋田の文芸について考えを深める
02
本文読解②
ロシア人との出会いの場面
・ストライキ場面
03
作品考察
・考察レポート作成
05
調べ学習
・秋田に縁ある文人調べ
04


授業実践
「乗組員には名前がなく、監督や会社代表のみ名前があるのはなぜか？」
名前の効果
「導入部と比べて終結部に変化したものとは？」
導入部・終結部の比較
「「蟹工船」がストライキを成功させず「そして、彼等は、立ち上った。―もう一度！」で物語を終わるのはなぜか？」
終結部の検討
「ストライキの成功＝労働者の勝利よりも作品が伝えたかったものとは？」
内容俯瞰・テーマの考察


成果
「蟹工船」は予想以上に生徒が主体的に読解できた
高校国語の教材として大きな可能性
「自ら行動すること」
「資本家への抵抗」「刃向かう意志」
「日本の働き方への違和感」
作品当時と現代社会の相違点
労働の在り方

成果
秋田県の文学作品や作者の理解の深まり
ふるさと基盤にした授業の在り方
「秋田県の文学作品や作者について知ることができたか」
よくできた　すこしできた　あまりできなかった
あまりできなかった
11.3%
よくできた
33.8%
すこしできた
54.9%


課題
授業外で本作品を手に取る行動
今後の読書活動への促し
文学への好奇心の醸成
本文編集・省略の検討
変化する「読解力」への対応

編集後記

今年度の校内職員研修会では、ＩＣＴ機器の活用方法や教材作成に関する研修を実施することができました。タブレットをはじめとし、ＩＣＴ機器の活用を取り入れた授業を展開する職員も増えてきました。

校内授業研修会でも、それぞれの授業者がＩＣＴ機器を活用し、生徒の主体的活動を促す授業を実践していました。参観者も大いに参考となり、授業改善に向けての活発な協議が行われました。

最後になりましたが、研究紀要編集にあたり、原稿を寄せていただきました先生方に、厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

表 紙　「止」　2年4組　齊藤　莉奈

令和４年度　研究紀要

令和５年３月発行

発　行　秋田県立増田高等学校
住　所　秋田県横手市増田町増田字一本柳137
電　話　０１８２（４５）２０７３
ＦＡＸ　０１８２（４５）２０８８
メール　masuda-h@akita-pref.ed.jp